

## 臨地実習を経験しての学び

を機に名寄で住み始めておおよそ3年と6か月が経った。入学当初は新型コロナウイルス感染症の影響

で、患者や職員、学生への感染リスク・感染状況を考慮し、病院内にて実習が実施されるが多かった。しかし、感染対策は継続しつつ徐々に活動が再開され、今年度、最終学年とな

ってからは病院・施設で臨地実習をさせて頂くことができた。臨地実習では、対象者本人と実際に日々関わり、ケアを実施していき、対象者の経過・変化を目的の当たりにしていく。臨地実習を経験してきた中で、対象者

と実際に継続的に関わっていくことを通して、その方の病状の経過や言動・表情・生活の様子の変化等を理解して、普段と違った点や正常から逸脱している点等に気づいた。

それらの気づきから、ケアやコミュニケーションの手順・注意点・留意点等を日々修正して実践していく必要があることを学んだ。

また、臨地実習では、病院・施設の職員や訪問先のご家族がおり、病院・施設・訪問先の環境の中で、ケアやコミュニケーション等を実践していく。そのため、自分一人の力だけで対象者と関わるのではなく、他の職員へ報告・連絡・相談をとることや確認をすること、助言をいただくこと、ご家族の思いを傾聴すること等により、対象者・ご家族の理解や病院・施設・訪問先での適切なケア・コミュニケーションも多くの学びを得

た。ただ、学びを得るだけでなく、看護師としてそれらをどう生かしていくかが重要である。残りの学生生活や

今後の看護師としての人生において、看護に関する学びの姿勢を持ち、得た学びを看護実践へと繋げていくことで、成長していきたい。

看護学科4年

中島恭介



中島恭介

中島恭介